

子どもの森づくり通信

(発行: NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク)

J P 子どもの森づくり運動 参加園月例会報 (2019年2月号)

「JP子どもの森づくり運動」とご縁をもたせていただいた方々に、 活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。

<今月の1枚>



今月号では、先日開催された「全国集会&研修会2019」のレポートをお送りします。 今年も本当に刺激的で充実した集会となりました。 内容の全体は短い紙面では紹介しきれませんが、今回はその一部をお送りします。 ホームページと併せてご覧いただければ幸いです。

(目次)

- 1. J P 子どもの森づくり運動「全国集会&研修会2019 |滋賀大会レポート
- 2. 事務局からのお知らせ / どんぐり博士の「育苗日記」(2019年2月号)

■「JP子どもの森づくり運動」とは

今、子どもたちは、高度な情報化社会の中でバーチャルな環境に取り囲まれ、本物の自然体験活動から遠ざけられています。 しかしながら、子どもたちは、変化に富んだ自然体験活動の中でこそ、五感を通じて豊かな感性や健全な環境意識、そして子ども本来 の生きる力を育みます。「JP子どもの森づくり運動」は、NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク(「子森ネット」)が「日本郵政グ ループ」との協働体制で、全国の保育園・幼稚園・こども園を拠点に、一貫した森づくり活動を通じて幼児期の子どもたちに自然体験活動と環境学習の場を提供しようという全国運動です。

■「JP子どもの森づくり運動 |運営体制

・運 営: NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク(「子森ネット」)

・特別協賛 : 日本郵政グループ

•後援/協力

(公社) 全国私立保育園連盟 (公社) 大谷保育協会

(公社) 国土緑化推進機構 NPO法人C・C・C富良野自然塾

(一社) 日本森林インストラクター協会 NPO法人自然体験活動推進協議会

N P O法人MORIMORI ネットワーク (一社) 日本オート・キャンプ協会

(株) 実業之日本社 月刊ガルヴィ編集部 保育環境研究所ギビングツリー



1. JP子どもの森づくり運動「全国集会&研修会2019」滋賀大会レポート

2019年2月7日(木)、8日(金)の両日で、滋賀県彦根市の「彦根キャッスルリゾート&スパホテル」において、JP子どもの森づくり運動「全国集会&研修会2019」滋賀大会が開催されました。同集会は、年に一度、JP子どもの森づくり運動の参加園と保育関係者が集い、交流と情報交換を行うことを目的に開催されます。2019年の集会は、活動10周年を踏まえ、これからの10年の活動の方向性を考え、協議する重要な集会となりました。以下、概略ですが、開催レポートをお送りします。

(*活動の詳細、及び参加者アンケートは、ホームページをご覧下さい。)

<開催概要>

・主 催:NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク(子森ネット)

·共 催:滋賀県私立保育園連盟

・特別協賛:日本郵政グループ

・協 力:全国私立保育園連盟 大谷保育協会 こども環境学会、

子ども環境研究所ギビングツリー、他

・参 加 者 : 保育園、幼稚園、こども園職員、及び保育団体関係者



1) 開会式

まずは開会式が行われ、主催団体の 子森ネットより岡村理事と共催団体の 滋賀県私立保育園連盟の谷口氏に ごあいさついただきました。







滋賀県私立保育園連盟 谷口瑞石氏

2) 基調講演「こどもとあそび」

基調講演の講師は、こども環境学会代表理事であり、東京環境デザイン研究所会長の仙田満氏にお願いしました。仙田先生は、子どもが健全に育つ遊びの空間について様々な研究成果をあげておられ、著書も多く出版されておられます。ご講演では、子どもの体験活動の原点である「こどもとあそび」そして、その意欲を喚起する空間について、環境デザインのお立場からお話いただきました。JP子どもの森づくり運動の今後の活動について、大変参考になるお話でした。



仙田先生のお話しのテーマは、主に以下の項目です。

- 1. こどものあそび環境
- 2. あそびの意欲を喚起するデザイン
- 3. 困難をのりこえる成育環境
- 4. こども第一運動

先生のお話しの詳細は、近著「こどもを育む環境 蝕む環境」(朝日新聞選書)をご参照下さい。





3) パネルディスカッション 「これからの体験活動について」

仙田先生の基調講演で提起された「こどもとあそび、そのあるべき環境」をテーマに、パネラーの諸先生と深掘りし、参加者の保育に役立つヒントを一つでも持ち帰っていただくことを目指しました。パネラーは、右写真左より、子森ネット清水(コーディネーター)、崇徳保育園谷口園長、大野幼稚園藤園長、若久青い鳥保育園岡村園長、こども環境学会仙田氏、飯田女子短期大学田中氏の皆さんです。



4)保育実践講座 I

「幼少期の自然体験活動で大切にしたいこと」

講師は、飯田女子短期大学 幼児教育学科 田中住幸氏。 田中先生には、自然体験講座もご担当いただきました。



6) 防災講座「本当に子どもの命を助けるために」

二日目は、恒例の消防庁アドバイザー鎌田修広氏による 防災講座です。いくつかの災害事例をもとに、実践的な講座 を実施していただきました。





パネルディスカッションでは時間の制限上、以下の三つのテーマに絞って討議いただきました。1. 自然体験活動を、自然の中でのあそびという観点から捉えなおしてあらためてその意義について 2. 子どもたちのあそびや体験の意欲を喚起する園庭の改善について、今できること 3. 子どもの森づくり運動を含むこれからのあうべき体験活動について、会場を巻き込んで活発な意見交換が行われました。 結果、JP子どもの森づくり運動のこれからの活動テーマとして、園庭の改善に取り組むこととしました。

5)保育実践講座Ⅱ

「保育者のチーム力を高めるチームビルディング」

講師は、チームビルディングのファシリテーターである子森ネット 塚原事務局長。「良い保育チーム創りの極意」がテーマです。



7) 災害時相互援協力協定

災害時に協力し合う支援協定の第4弾が、今年も、滋賀県 「崇徳保育園」谷口園長、岩手県「赤前保育園」小関園長、 北海道「三和新琴似保育園」の三園で締結されました。



2. 事務局からのお知らせ

1) 園庭緑化事業に関する助成金情報

J P 子どもの森づくり運動の協力団体である「国土緑化推進機構」より、園庭緑化等を助成対象に加えた『緑の募金』の公募受付開始について、情報提供がありましたのでご案内します。 ご興味のある方は、事務局までお問合せ下さい。

『緑の募金』では、2018年度から青少年の教育活動に活用する森林の整備等を支援する「子どもたちの未来の森づくり事業」を新たに創設するとともに、2019年度からは新たに「一般公募事業」に「保育所・幼稚園・学校等の園庭・校庭等の緑化の推進」を拡充します。詳しくは、「緑の募金」2019年度公募要領をご参照下さい。

- ⇒ http://www.green.or.jp/bokin/volunteer/activity-support
- * 留意事項
- ・民間非営利団体を対象としているため、園・学校・企業は、助成金の申請主体とはなりませんのでNPO等と連携した取組をご検討ください。
- ・2019年度の申請期間は、2/15~3/31となります。



2)「保育に役立つ自然・環境体験プログラム集」完成間近!

J P 子どもの森づくり運動10周年記念として、昨春より取り組んでまいりました「保育で役立つ 自然・環境体験プログラム集」が間もなく完成します。プログラムのご提供と監修をお願いしました飯田女子短期大学 幼児教育学科 准教授 田中住幸先生をはじめ、各方面の多大なるご協力により、とても素晴らしいプログラム集となりました。お届けできる時期を含めて、詳細は「子森通信」次月号でご案内します。どうぞ、お楽しみに。



●どんぐり博士の育苗日記(2019年2月号) ~小鳥のサンクチュアリ2~

前回に続き、都市部の小鳥と樹木の関係について思案していたところ、驚きの、そして悲しいニュースが舞い 込んできました。東京都の住宅街にミミズクが迷い込み話題になっていましたが、車との接触で死亡してしまった そうです。「子森ネット」どんぐり博士:河内和男(森林インストラクター)



なぜ都心に近いところにミミズクがと驚かされましたが、人に飼われていたものが逃げ出したもののようです。さすがに森の王者や賢者と呼ばれるフクロウの仲間は、なかなか町中で見られるものではないですね。しかし、フクロウなども入る猛禽類の仲間には、チョウゲンボウなどのハヤブサの仲間が、元来崖に巣を作る生態が転じ、都会のビルに営巣し繁殖している例も知られています。

鳥たちのこのような適応力とたくましさには感心させられますが、人間の開発により鳥本来の生態が失われるのは悲しいです。開発により適応を余儀なくされる生物たちへの配慮も含めた開発が必要です。SDGsの理念にも通じるものと思います。

都市部に適応をした鳥たちのオアシスとなるのが、前回からお話ししている町中の木々です。けれど、近隣にオアシスとなる木が少ない場所に、あまりにも鳥にとって居心地の良い木を作ってしまうと、鳥が集団で集まってしまうことがあります。良くある例が、秋から冬にかけて、ムクドリの集団ねぐらになってしまうことです。

鳥たちが集団をつくるのは外敵から身を守るためですから、樹冠が密で内部が見えない木は、鳥に最も居心地の良い木です。ですから、町中で木を育てる場合には、毎年、管理が必要です。枝葉をすいて樹冠内部が見通せるようにするか、強刈り込みにして、樹冠内の空間を無くす方法があります。そしてこの管理作業の適期は、鳥が集団をつくる前の夏となります。